

履修コード/科目名称	031311 / 英語科教育法 I		
開講年度・期	2019年 通年	開講曜日・時限	金曜日 3時限
単位数	4		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	千葉 克裕 (チバ カツヒロ)		
副担当教員氏名(カナ)			
授業概要	前半は主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。後半は実践面を中心に、コミュニケーション型な英語科教育のための4領域や文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語活動、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。		
到達目標(ねらい)	中学・高校における英語科教育の理論とその方法を学ぶ。英語教育の目的から始まり、4技能の教授法に加え、理論上の諸問題や英語教育を取り巻く様々な問題について理解を深め、英語教員として必要な知識と技術の基礎を身につける。耳から入り、音と意味が結びつけられ、文字で確認し、記述するという人間の自然な言語活動の順序に則した授業展開ができるようになる。そのために必要な第二言語習得理論の基礎的な知識を身につける。中学校・高等学校の指導要領に求められる英語教育の内容を理解し、主に英語を通して授業を展開できる技術を身につける。		
授業スケジュール	第1回	イントロダクション（英語教育の目的;良い授業とは?）、模擬授業割り当て	
	第2回	第1章 英語を学ぶこと、教えること：国際語としての英語-なぜ英語を学ぶか?異文化との関わりから	
	第3回	第2章 英語の指導目標と内容、 学習指導要領：中学校・高等学校における英語の目標と内容	
	第4回	第3章 学習者の要因、（学習スタイルと学習ストラテジー）	
	第5回	第4章 良い教師の役割と良い教師の条件	
	第6回	第5章 言語習得理論上の諸問題、（第一・第二言語習得のメカニズム）	
	第7回	第6章 指導の原理；指導法概観、コミュニケーションプランゲージティーチングの教え方	
	第8回	第7章 発音の指導（日英語の発音の違いと効果的な発音指導）	
	第9回	第8章 文字と綴り字の指導（英語の綴りの不規則性、フォニックスとはなにか）	
	第10回	第9章 語彙の指導（語彙力の定義と効果的な指導法）	
	第11回	第10章 文法の指導（文法とはなにか? 中学高校で教えるべき文法とその教え方）	
	第12回	第11章 リスニングの指導（英語教授法の歴史と特徴、効果的なリスニング指導）	
	第13回	第12章 スピーキングの指導	
	第14回	第13章 リーディングの指導、（効果的なリーディング指導）	
	第15回	中間まとめ（理解度の確認小テスト）と振り返り	
	第16回	第14章 ライティングの指導、（効果的なライティング指導）	
	第17回	第15章 言語技能を統合した指導（4技能を統合した指導の必要性和教え方）	
	第18回	第16章 教材研究と授業の準備 指導案(1)構成要素 学習経験を振り返る	
	第19回	第17章 授業案の作成と進め方 指導案(2)指導計画の立て方	
	第20回	第18章 教材と機器の活用（ICTを活用した授業の方法）	
	第21回	オーラルイントロダクションの基本（言語材料・内容理解）	
	第22回	模擬授業 高校（1）オーラルイントロダクション（言語材料・文法事項）	
	第23回	模擬授業 高校（2）オーラルイントロダクション（本文の内容）	

	第 24 回	模擬授業 高校 (3) 新出語彙の指導と言語活動
	第 25 回	模擬授業 高校 (4) ICTを生かした内容理解
	第 26 回	第19章 ネイティブスピーカーの活用 (ティームティーチングのあり方と進め方)
	第 27 回	第20章 テストと評価 (テストなど各種評価方法の理念と特徴)
	第 28 回	第21章 小学校での英語教育 (早期教育の効果と問題点、初等英語教育の方向と問題点)
	第 29 回	第22章 これからの英語教育
	第 30 回	まとめと省察、専門性向上と英語教師の成長
準備学習	教科書は予習を前提としますので、必ず事前に読んで来て下さい。	
履修上の留意点等	英語科教育法Ⅱと合わせて履修することが望ましい 高校の免許のみを取得する学生はこの単位だけで良いと思われていますが、高校の授業をするためには中学以上の専門知識と技術が要求されます。中高の免許種別にかかわらずⅠ・Ⅱ合わせての履修を強く薦めます。	
成績評価の方法	50 %	試験
	25 %	レポート
	10 %	小テスト
	5 %	平常点
	10 %	課題および模擬授業
	<p>評価基準</p> <p>AA：学習指導要領、および各種外国語教授法を十分に理解し、その相互の関係について具体的な指導法を提案できる。</p> <p>A：学習指導要領、および各種外国語教授法を十分に理解し、その相互の関係を考察できる。</p> <p>B：学習指導要領の内容、および各種外国語教授法を十分に理解している。</p> <p>C：学習指導要領の内容、および各種外国語教授法を理解している。</p> <p>D：学習指導要領の内容、および各種外国語教授法についての理解が不十分である。</p>	
教科書/テキスト	「新編英語科教育法入門」(2011, 土屋澄男編著) 研究社 New Horizon English Course1, 2, 3 (東京書籍) CROWN English Communication I (三省堂) 文部科学省「中学校学習指導要領 - 外国語」平成29年3月 文部科学省「高等学校学習指導要領 - 外国語」平成30年3月	
参考書 ▶ 図書館蔵書検索	「実践例でまなぶ 第2言語習得研究に基づく英語指導」(2017, 鈴木渉編) 大修館 「英語授業ハンドブック (中学校編)」、「英語授業ハンドブック (高校編)」大修館	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	積極的に発言できないタイプの学生に対しても平等に扱って欲しいという意見がありました。 いろいろなタイプの学生がそれぞれの持ち味を発揮できるような授業運営を心がけます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		